

## 2013年 年頭ごあいさつ

セブン&アイ・ホールディングス 会長兼最高経営責任者（CEO） 鈴木敏文

明けましておめでとうございます。経済の実態は依然として厳しい状況にありますが、昨年末からは株価上昇や円安傾向など明るい兆しも生まれています。しかし、国内の景気回復が進み、経済成長の結果として多くの人々の収入が増加し、消費が本格的に回復を果たすまでには時間を要します。私たちはこのような消費の回復を手をこまねいて待っているわけにはいきません。私たちは積極的にお客様の期待に応え、お客様がいまお求めになっている商品・サービスを、いち早く提供することで、景気動向にかかわらず成果を上げ、各社、各事業の成長を図ることが不可欠です。

そのためにも「積極的にお客様に近づく」ことが、いま何よりも求められています。セブン&アイグループは、昨年、「接客」と「新商品の開発」を最重要課題とする新しい方針を打ち出しました。いま、お客様が「価値ある商品」、「新しい商品」を強く求めていることは、新年 3 ヶ日の傾向にもはっきりと表れています。私たちは「接客」に全力を注いで、お客様に私たちの商品・サービスの価値を積極的に伝え、商品開発を通じて「新しい価値」の提供を図っていくことが、いまや流通業には不可欠です。セブン&アイグループは、今年も「接客」と「新商品の開発」にいっそう力を注いでいきます。

グループ各社の取り組みでは、セブン-イレブンは引き続き積極的に店舗展開を進め、2013年度は 1,500 店以上の新規出店を行う予定です。またイトーヨーカドーは「接客の強化」に向けて、昨年 新たな体制を立ち上げ、実験も進めてきましたが、今年はその成果を生かして、取り組みを順調に軌道にのせ新たな成長力を生み出していくことに全力を注いでいく方針です。ヨークベニマルは、震災からの復興が進む中で新たな成長力を育み、更なる売上・利益成長に取り組めます。

「新商品の開発」では、グループ全体で MD(マーチャндаイジング)の改革・強化を進め、セブン&アイならではの魅力ある商品提供で、積極的に差異化を図っていきます。なかでも、同質化が進んでいる百貨店業態にあって、そごう・西武はこれまで以上に自主 MD に力を注ぐことで、お客様の支持をさらに広げていきます。また、セブン&アイ・フードシステムズも、新規事業の開発に 取り組み、新しい仕事の仕方を徹底していくことで、黒字拡大を図ります。

さらに、「EC 事業戦略の強化」も、これからの成長基盤として、いっそうその重要性が高まっています。セブン&アイグループは、今年 4 月にグループ各社がこれまで独自に進めてきたネット(EC)事業をセブンネットショッピングに統合します。また、6 月には事業基盤となる「新物流センター」を稼働させ、グループの EC 事業をより強力で推進していきます。

これらの方針のもとで、いま日本経済に生まれている「明るい兆し」を積極的に生かし、皆さんとともに今年を大いなる飛躍の年としていきたいと願っています。

(2013年 1月 4日 年頭朝礼あいさつ要旨)